The Comet

The Newsletter of K. International School Tokyo

Volume 27 | Issue 2 | December 2023

今号では・・・

▶03...新校舎建設Update!
▶05...幼児教育ニュース
▶06...Times Tables Rock Stars
▶08...DP Physicsのゲストスピーカー
▶09...上郷でのG9キャンプ
▶12, 13...I&S部門からのスナップショット
▶14...アボガドロ化学試験
▶15...KPASS音楽祭
▶16...休暇中の管理について
▶17...運動部最新情報
▶19...スクールカレンダー2024–25
▶20...クラブ活動のハイライト

> 「人生は常に試練を与え続ける。だから学ぶことを止めてはいけない。」
>
> —Lin Pernille

学校長より

親切の言葉の力

ケイ・インターナショナルスクール東京の使命は、学習意欲の高い子どもたちに質の高い教育を提供するだけでなく、国際社会に有意義に貢献できる高い道徳性を持った人材を育成することです。私たちがこの目的を達成するための、過小評価されがちですが強力な方法のひとつが、「親切な言葉を使う」という単純な行為です。

時に混沌とし、目まぐるしく感じることもあるこの世界で、親切な言葉が与える影響は計り知れません。それは積極性の見本となり、他者にポジティブな影響を与える波及効果を生み出します。生徒が言葉を通じて親切な行為をすることは、支援的な環境に貢献するだけでなく、生徒自身の道徳的人格の育成にも積極的に参加することになるのです。

先週、K1の教室の前を急いで通り過ぎようとしたとき、“Mr. Yoshihara、こんにちは!”と元気よく挨拶する子どもの声が私の気をひきました。興味をそそられ、立ち止まって振り向くと、K1の生徒の一人が靴を履き替えていました。その小さな子の顔に浮かんだ純粋な笑顔に、私は一瞬言葉を失いました。その一瞬で3歳児の単純で誠実な言葉は、私の一日の流れを一時停止させ、喜びで満たす力があります。それは、私たち誰もが持っている深い影響力、つまり、私たちの言葉や行動を通して他の人々にポジティブさと喜びをもたらす能力について振り返ることを促しました。

ケイ・インターナショナルスクール東京では、安全で協力的な環境を育むことが教育理念の中核となっています。生徒たちに言動の中で親切心を選ぶことを促すことで、私たちは生徒が人とのつながりを築き、共感力を養い、強い道徳心を身につける力を与えています。このような資質は、生徒の個人的な成長を高めるだけでなく、KISTコミュニティの責任ある一員として、またそれ以上の存在として位置づけます。

学問的な卓越性を追求する旅において、私たちは親切な言葉が周囲の人々に与える影響の大きさを忘れてはいけません。ケイ・インターナショナルスクール東京では、国際社会に大きく貢献する有能でアカデミックな人材を育成する上で、「親切心」が不可欠な要素であることを理解し、それがもたらす変革を認識しています。

Kevin Yoshihara Ed.D.
Head of School/Elementary School Principal

重 要 な 日 程

2023年12月

8 (K3-G5) LEAP classes end
8 (K1-G3) After care not available on this day
11-12 (G6) Semester 1 examinations
11-13 (G7, G8) Semester 1 examinations
11-14 (G9, G11) Semester 1 examinations
11-15 (G10) Semester 1 examinations
15 Winter celebration (*Cancelled)
15 End of semester 1
15 (K1-G3) After care not available on this day
16-Jan 7 Winter vacation
18-19 Office open

2024年1月

8 (K1-G11) School holiday
8-15 (G12) DP mock examinations
9 (K1-G11) School resumes/ Semester 2 commences
9-26 (G1-G5) Writing diagnostic testing
12 (G6-G10) Mathematics diagnostic assessments (*Morning)
12 (G6-G11) Half day for students
12 2024-2025 admissions applications close
15 (G1-G12) Semester 2 clubs program resumes
19 Semester 1 reports issued

WE ARE A CIS ACCREDITED SCHOOL

哀悼

コミュニティの皆様

前学校長のジェフリー・ジョーンズ氏が11月8日（水）、安らかにこの世を去りました。ジェフリー・ジョーンズ氏は、長期間にわたり困難な病気と勇敢に闘いました。彼の強さと忍耐力、そして学校コミュニティへの揺るぎないコミットメントは、私たち全員に永遠の足跡を残しました。

Mr.ジョーンズがKISTに残したものは、卓越したリーダーシップと業績です。セカンダリースクールの数学教師としての役割からスタートし、2014年から2019年までの学校長としての在任期間、彼はKISTの成長において極めて重要な役割を果たしました。彼の献身はディプロマプログラムでの急速な成功を含む重要なマイルストーンにつながりました。

Mr.ジョーンズの思い出を称え、**2024年1月22日（月）午後2時30分から7時まで**、学校で追悼行事が行われます。この行事は、私たちのコミュニティーが一堂に会し、彼の人生と、彼のビジョンと教育への情熱がKISTに、そしてKISTの外に与えた永続的な影響を祝う機会となります。

私たちはMr.ジョーンズの死を悼む一方で、彼が残した功績を称えます。彼の献身、優しさ、そしてインスピレーションを与える並外れた能力は、永遠に記憶されることでしょう。私たちは、彼のご家族と、彼のリーダーシップ、優しさ、友情に触れた学校コミュニティのすべてのメンバーに深い哀悼の意を表します。

ジェフリー・ジョーンズ氏は永遠に当校の歴史の大切な一部であり、彼の思い出は、私たちが教育の旅に進む際に、私たちを導き、鼓舞し続けることでしょう。

Sincerely,

Kevin Yoshihara
Head of School/Elementary School Principal

Jeffrey Jones

新校舎建設Update！

この *The Comet* が発行された数日後がまさに引越しの真最中で、私は終わらないパッキングの途方にくれている自分の姿を想像しながらこの原稿を書いています。引越しと全ての準備が終わり、新年度に皆さんを迎えられるようもう少し頑張ります。

東砂からこの清澄白河の地に念願かなって移転してきたときから、新校舎建設は大きな夢の一つでした。それが今こうして現実化できたことは心からの喜びです。新校舎建設はKISTの歴史の中での大きなマイルストーンです。

新校舎は本当に多くの皆さまに支えられて完成した建物です。今回新校舎建設にあたり保護者の皆さまに広くご寄付をお願いしてまいりました。ご寄附に対する記念タイルは、5階の体育館入口付近の壁を素敵に飾っていますので、皆様学校に立ち寄られた際にはぜひご覧になってください。またCAからは新校舎建設のために長年様々なイベント運営で貯めていた売上の寄付をいただき、今回サイエンスルームに新たにヒュームフードを1台追加設置することができました。

G7のLiu familyから新校舎内の全てのトイレにハンドドライヤーを寄付していただきました。寄付プレートに刻まれた"Love Flows, Water Goes"という詩は、寄付の背後にある善意と寛大さ、そしてハンド・ドライヤーを使用することで得られる快適さと利便性を提供するという継続的なコミットメントを象徴（Love Flows）と、また、ハンドドライヤーが手から水分を取り去るという実用的な目的（Water Goes）を意味しているそうです。

改めて多大なるご寄附にご協力くださいました保護者の皆さま、スタッフに心から感謝申し上げます。

完成に向けてハードなスケジュールとなっていた先日、エレメンタリーSRCの発案で、KISTの新校舎のために一生懸命働いてくれた現場の皆さんに感謝を伝える素敵なメッセージカードが沢山集まり、ESRCから直接現場の皆さんに届けることができました。工事の皆さんがとても喜んでくれていました。エレメンタリーの皆さん、ESRCの皆さん、

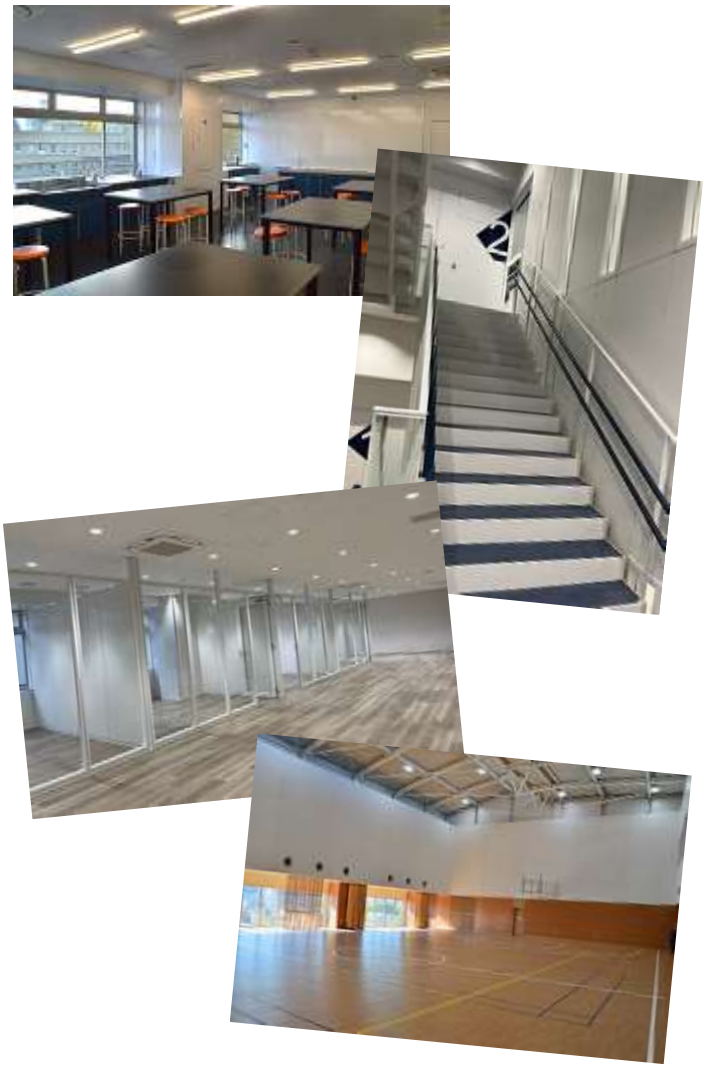
ありがとうございました。

いよいよ新しい年明けとともに、新校舎での学びが始まります。2024年は記念すべき新たな年となります。新校舎に生徒の喜ぶ姿を想像して、その期待に胸を躍らせています。

17年間お世話になった本館は、1月以降から解体工事が始まり、新たな校庭へと2024年秋ごろを予定に生まれ変わります。

最後に、17年間頑張ってくれた様々な思いの詰まった、旧校舎へ感謝の気持ちを伝えたいと思います。17年間がんばってくれてありがとうございました！移転に際し皆で一生懸命皆でペンキを塗りましたね！　たくさんの素晴らしい、楽しい思い出をありがとうございました！

Sayoko Naito
Director of Operations



PYPニュース

可能性を解き放つ: 小学校でIB学習の方法を模索する

今回の『*The Comet*』では、国際バカロレア（IB）の「学習へのアプローチ（ATL）」が、若い学習者の知識や技能への取り組み方をどのように変えているかを紹介していきます。

IBの理念の中核にあるのは、教育は単なる事実の習得にとどまるべきでなく、生徒が日々進化する世界の複雑さを乗り越えることのできる生涯学習者になるよう力を与えるべきであるという信念です。IBの「学習へのアプローチ」は、重要なスキルと態度を育成する枠組みを提供し、私たちの小学校の教室は熱意と創造性をもってこれに取り組んでいます。

IBの「学習へのアプローチ」の重要な柱のひとつは、**思考力**です。私たちの教室では、考えることは受動的な活動ではなく、冒険であり、探求の旅なのです。批判的思考、分析、統合を促す活動を通して、若い頭脳は単に情報を吸収するだけでなく、能動的に知識を構築していきます。例えば、K3やG1の「世界のしくみ」の授業では、科学的手法の応用を学びながら、複数の科学実験に取り組んでいました。生徒たちは科学的事実をただ暗記するだけでなく、実際に実験に取り組み、疑問を持ち、仮説を立て、自分なりの結論を導き出すよう促しています。これにより、科学的概念の理解が深まるだけでなく、探究型学習への愛着も芽生えます。

IB ATLのもうひとつの重要な側面は、**研究能力**の向上です。小学校では、研究は教科書の中だけにとどまらず、日常生活にまで及びます。当校の生徒たちは、環境、社会、文化について質問し、その答えを見つけるために小さな研究プロジェクトに着手するよう奨励されています。G2の「Sharing the Planet」で地元の動植物を探検するにしても、K2が世界中の食べ物から感性を探求するにしても、G3が「Who We Are」で異文化を理解するにしても、これらの活動で身につけた研究能力は非常に貴重であり、情報が溢れ、それを活用する能力が最も重要である未来のための基礎を築くものです。

社会的スキル、特に協調性はIBの枠組みで高く評価されており、教室内ではチームワークに取り組んでいます。グループ・プロジェクトからクラスメートに勉強を教えるに至るまで、生徒たちは多様な視点を認め、違いを交渉し、共通の目標のために独自の強みを発揮することを学んでいます。このような協力的な活動は、生徒たちが将来職業に就くための準備となるだけでなく、相互につながっているこの世界で不可欠な資質である共感と理解の感覚を養うことにもなります。

コミュニケーション・能力は不可欠であり、創造的に自己表現することは、小学校では奨励されるだけでなく、賞賛されています。美術、音楽、そして数学や英語などの教科を通しても生徒たちは自分の創造性を探求する機会を与えられています。G4が政府のシステムを視覚的に表現したり、K1が保護者のために美術展を開いたり、G5が展覧会を通して地域や世界の問題について理解を深めたりすることは、学習を楽しくするだけでなく、革新や問題解決に不可欠な創造的思考力やコミュニケーション能力を育みます。

IB ATLの枠組みは、**自己管理能力**にも重点を置いています。目標設定から効果的な時間管理まで、小学生たちはは徐々に自立した学習者になりつつあります。クラスでのプロジェクトやプレゼンテーションなど、計画や構成が必要な活動を通して、生徒たちは自分の学習の旅に対する責任感を育てています。

結論として、私たちの小学校の教室は活気に満ちた学習の拠点であり、そこではIBの「学習へのアプローチ」が単なる原則ではなく、生活様式となっています。批判的思考、研究能力、協調性、創造性、自己管理を促進する魅力的な活動を通して、若い学習者たちは単に知識を身につけるだけでなく、将来の課題に取り組むことのできる豊かな人間へと成長しています。教室の変貌を目の当たりにして、私たちは、教育とは単に受験のために生徒を準備することではなく、人生のために生徒を準備することなのだということを再認識させられます。そして、IB ATLを指針としながら、私たちの小学校では毎日、学びの冒険が繰り広げられています。

Oliver Sullivan
PYP Coordinator

幼児教育ニュース

KIST Familiesの皆さん、こんにちは。一年が経つのは本当に早いですね、もう12月号の*The Comet*を書いているという事は、2023年も、もうすぐ終わってしまいますね。

2023–24年度はコロナ渦以降、ようやく、家族遠足や、クラスでのクッキングの授業、各学年での保護者の方にお願いしての発表などたくさんの活動をまた再開することができました。

今月号ではそんなクラスの様子を少し覗いてみたいと思います。

K1クラスにはたくさんの特技を持った保護者の方がいますね！How We Express Ourselvesのユニットを学んでいる子ども達のために、たくさんの保護者の方が、それぞれの得意なことを発表しに来てくれました。子ども達に、何を教えてくれているのか、写真を見ただけでわかりますか？みんなとても楽しそうですね。

K2クラスはWhere We Are in Place and Time のユニットを通して、広く公平な心を持てるよう、色々な国から来ている保護者の方に発表をしてもらったり、先生と一緒にいろんな国のお料理を作って食べたりしながら学んでいます。また、5年生のLiaさんにも彼女の国について発表をしてもらいました。Liaさん素敵な発表をありがとうございました。

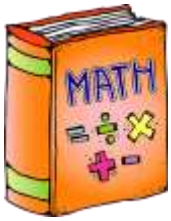
K3クラスはWho We Areユニットを通して、私たちはいろいろな理由からそれぞれが食べるものを決めていることについて、保護者の方にそれぞれの食習慣を説明してもらったり、実際にその食事を作ったり、また、自分たちで考えた、自分たちが食べたいサンドイッチの具材を実際に買い物して、作ったりしながら学んでいます。

本当にたくさんの楽しい学習が行われていますね。その周りではまだまだ様々な感染症が流行っています。どうか皆さんが健康で穏やかな冬休みを過ごすことができますように。

2024年にお会いできることを楽しみにしています。

Eri Ozawa
Early Childhood Coordinator (K1–K3)/K2A Teacher

Times Tables Rock Stars



生徒たちが比類ない熱意とエネルギーで数学の才能を開花させている数学のデジタル領域から最新の話題をお届けすることに興奮しています。そう、Times Tables Rock Stars（TTRS）の爽快な世界の話です。TTRSは、掛け算と割り算をスリリングな音楽の冒険に変えたオンライン・プラットフォームです。

TTRSは倍数表を楽しく学べるようにしただけでなく、Battle of the Bandsを開催し、倍数表を競争的な物にしてきました。先日のトーナメントでは、様々な学年の生徒が頂点を競い合い、その競争は熾烈な戦いでした。トーナメントのリーダーボードと最優秀選手（MVP）は以下の通りです。

1st—G3A: **Riu**, **Haru**, **Jino**
2nd—G5B: **Takuto**, **Caleb**, **Elaine**
3rd—G5A: **Aki**, **Mirei**, **Tianyou**
4th—G3B: **Aneesha**, **Zihan**, **Devin**
5th—G2A: **Akira**, **Arthur**, **Kenneth**
6th—G4B: **You Yu**, **Alice**, **Ami**
7th—G4A: **Tsumugi**, **Raian**, **Saif**
8th—G2B: **Yukimasa**, **Kenta**, **Sophie**

その中でも**Vaishnavi**（G5B）は史上初めて「最も成長した選手」賞を受賞しました。Vaishnaviの数学的スキルを磨くための献身と努力は、まさに継続的な向上と成長の精神を体現しています。

Vaishnavi (G5B)

TTRSから生み出されるエネルギーと興奮は、倍数表の学習を魅力的なものにするだけでなく、生徒の間に切磋琢磨の感覚を育みました。私たちは、参加者一人ひとりの熱心な取り組みと熱意を誇りに思うと同時に、将来さらに多くの数学的驚異を目の当たりにすることを楽しみにしています。

また、Battle of the Bandsトーナメ ントが毎月開催されることになりました。これによって、生徒たちは自分の数学的スキルを披露し、定期的に上位入賞を競う機会を得ることになります。さらなる期待に加えて、優勝者とMVPには賞状を授与し、その優れた功績を称えたいと思っています。

Times Tables Rock Starsで数字を攻略し続ける生徒たちの数学的冒険の最新情報を楽しみにしていてください！

Anita Prashar
G3A Teacher

G2A

G3A

G4A

G5A

KIPSニュース

From the P0/P1 classroom...

暑い日がいつまで続くのか心配していたのも束の間、いつの間にか寒い日が続くようになりましたね。それでもKIPSの子どもたちは毎日元気に登園しています。

2年ぶりにP0のお子さんを迎え、笑顔の絶えない今年度のP0、P1クラスは、入園してから数か月が経った今、すっかりKIPSでの生活習慣に慣れた様子です。午前中の授業が終われば牛乳を飲み、外遊びに行く準備を自ら始めます。まだ1人で靴下を履くことは彼らにとって難しいことですが、自分で靴下を取りに行き、一生懸命に自分で履こうと努力する姿は微笑ましく、さらには逞しささえ感じさせてくれます。

まだまだこれからも彼らにとっては挑戦の日々が続きますが、こういった1つ1つの困難を乗り越えて、子どもたちがさらに高い目標にも挑み続けられるよう、今後も保護者の皆さんと共にサポートしていきます。

それでは皆さん楽しい冬休みをお過ごしください。

Minami Nose
Nurse

From the P2 classroom...

早いもので入園から3か月が経ちました。子ども達はKIPSでのルーティンを覚え、先生達が声を掛けなくても自分で考えて行動できるようになってきました。Language Arts、Science/Cooking、PE、Art、Japanese、Musicのクラスがあり、毎日楽しそうにレッスンを受けています。初めての大きなイベントHalloween Partyも、素敵なコスチュームを着て嬉しそうに参加していました。

私のJapaneseクラスでは、毎月食育を行い、色々な食材について学びます。入園してから3か月で『牛乳』『バナナ』『豆腐』について学びました。それぞれの食材はだれが作っているのか、どうやって生っているのか、スーパーや食卓で見ている食材との違いは何かなどについて色々と話をします。また、牛乳からバターを作ってみたり、バナナは緑色だと知ったり、豆乳から豆腐を作ってみたりと、食材が変化する様子を見て味わって、五感で体験しました。子ども達は目をキラキラさせながら話を聞き、その食材が出てくると思い出して「このバナナは緑じゃないね」「みんなで作ったよね」などと話しています。

食育に限らず、子ども達のキラキラした興味津々の顔を見られるように、これからもKIPS職員一同工夫を凝らしてクラスや保育を進めて参ります。

Yoshimi Machida
P2 Teacher

IGCSEニュース

一学期が終わりに近づきましたので、お子様とその成果や今後の成長について話し合うことをお勧めします。IGCSEの観点から、新年度に期待されることと同様に、1学期は特筆すべき経験 をしました。

まず、G9とG10のキャンプを体験した生徒の記事を読んでいただきたいと思います。前号から、G9は神奈川の上郷へ、G10は千葉のサンセットブリーズ保田へ行きました。各グループとも、思い出に残るユニークなキャンプを体験したことは、添付の生徒向け記事に詳しく述べられています。

第二に、学習時間割とマイクロソフトのTo Doタスクを通して、お子さんが整理整頓を心がけることをお勧めしたいと思います。願わくば、お子さんが自分の学業や課外活動に最適な学習時間割に作成し、時間をよりよく管理できるようになればと思います。G10は、これらのツールを使って前年度のトピックの復習に集中し、期末試験に備えましょう。G9の生徒にとっては、2学期に入り、予定されている教科の復習時間をより多く使うことができるようになります。さらに、Schoologyにログインし、お子様の評価カレンダーと個々のクラスをご覧になることをお勧めします。そうすることで、生徒の学習内容について質問することができ、生徒の学習進捗をよりよく管理することができます。

最後に、G10生は次号の「コメット」発行までに2つの重要な期日があります。2月23日、学校はDPオプションズ・デイを開催し、保護者と生徒がガイダンスを受けたり、科目選択の可能性について質問したりすることができます。また、4月1日～11日にはG10IGCSE模擬試験が予定されています。この模擬試験は、生徒が各教科のペーパー1とペーパー2を受験し、各教科の理解度を証明する機会となります。

今後ともご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。また、IGCSEに関するご質問がありましたら、お気軽にご連絡ください。

Keith Erickson
IGCSE Coordinator

DP Physicsにゲストスピーカーをお迎えました

博士号候補者、Arnau Albàさん

日進月歩の物理学の世界において、その分野の専門家から学ぶ機会は貴重な経験です。最近、G11とG12のDP物理の生徒は、KISTのコミュニティの一員であるMs Albaの兄弟で、スイスのPaul Schrerrer研究所の博士候補者であるArnau Albàさんをお迎えする機会に恵まれました。

この充実した経験は、博士号取得に何が必要かを理解する上で忘れがたい足跡を残しました。講演の中でArnauさんは、独創的な研究プロジェクトの重要性、博士課程の学生が研究で利用できる素晴らしい施設について話し、また、マルチレベル・ラッソ・モンテカルロと、機械学習を用いた使用済み核燃料の不確実性定量化に関する彼の独創的な研究の核心に関する情報を共有してくださいました。

Web https://arxiv.org/pdf/2309.00364.pdf

科学的な内容だけでなく、Arnauさんは物理学分野での個人的な歩みを紹介し、DP Physicsの学生全員にアドバイスを送ってくださいました。彼は、知識の追求における好奇心、回復力、協力の重要性を強調されました。多くの学生が彼の言葉からインスピレーションを受け、物理学やその他の科学分野でのキャリアは挑戦的であるだけでなく、非常にやりがいのあるものであることを実感したことでしょう。

Cesar Cely
Subject Area Coordinator—Science

上郷でのG9キャンプ

10月5日と6日、G9はIGCSEコースの準備のため、横浜へスリル満点のキャンプに出かけました。キャンプでは、金沢動物園、すべり台のある公園、そして八景島シーパラダイスを訪れました。

1日目：

朝、生徒たちはワクワクしながら生物室に駆け込み、出席を取り、これから始まる爽快なキャンプについての最初の説明を受けました。1時間ほどバスに揺られ、ようやく金沢動物園（絶滅危惧種専門の自然保護を目的とした園）に到着しました。園内をグループで散策し、クラスメイトや動物たちの写真を撮りました。昼食後は、バレーボールやバスケットボール、サッカーをしたり、障害物競走を楽しみました。暑さと楽しい一日でびしょ濡れになりながら、私たちはバスに戻り、今夜の宿泊地へと向かいました。

間もなくキャンプ地に到着し、部屋の鍵を受け取り、荷物を整理してベッドに寝床を確保し、多目的ルームでドッジボールやバレーボールを楽しみました。そしてその後もドッジボールやバレーボールを楽しみました。騒々しく混沌としていたにもかかわらず、私たちは互いに礼儀正しくフェアなゲームをすることができました。夕食を終えた後、私たちは温泉で温まり、充実した時間を過ごしました。時計はすぐに9時を回ったので、私たちはそれぞれの部屋で、持参したおいしいキャンディーやスナックを食べ続け、話しながらむしゃむしゃと食べました。チョコレート、キャンディー、パンを食べる者もいれば、ゼリー、プリン、ポテトチップスを食べる者もいました！何人かのクラスメートは夜早く眠ったものの、ほとんどのクラスメートは結局朝方まで起きていて、（誰も起こさないように）小声で話しながら、遊んだり、おしゃべりしたり、素晴らしい時間を過ごしました。

2日目：

ぐっすり眠った後、朝の温泉に入りたい人は6時半に起きて、温かいお風呂に駆け込みました。朝早くから体を洗ってリフレッシュした生徒たちは、食堂に集まって朝食をとりました。朝食後、私たちは急いで部屋に戻り、大好きな後片付けを済ませました！快適な部屋に別れを告げ、私たちは八景島シーパラダイスへと向かいました。テーマパークへ向かうバスの中は、興奮に包まれていました。どんな乗り物に乗ろうか、水族館でどんな海の生き物を観察しようか、そして何よりフードコートでどんなものを食べようか、そんな会話が飛び交っていました。テーマパークに到着すると、私たちは各自自由に園内を散策しました。私たちは皆、巨大なテーマパークの中を熱心に動き回り、数々の乗り物や興味をそそる海の生き物を発見しました。私たちの多くは、テーマパークの目玉であるジェットコースターへと急ぎました。この巨大なジェットコースターは横浜湾の真上にあり、テーマパーク全体と広大な海を見下ろすことができるほど高い場所にありました。落下の高さに恐怖を感じ、前方の景色を見逃した人も多かったかもしれないですが、落下地点からの景色は魅惑的でした。ジェットコースターのスリルが終わり、お腹を空かせた生徒たちはフードコートに向かいました。各自フードコートでおいしい食事を注文し、テーマパークの残りの部分を楽しむために再び出発しました。

水族館では、巨大な水槽の中で、色とりどりの光と高揚感のある音楽とともに、美しい海の動物たちのショーが行われていました。イルカのショーもあり、知能の高いイルカが繰り広げる驚くべきパフォーマンスやトリックから生まれる水しぶきを浴びることができました。

すべての興奮が終わると、何人かの生徒が休憩のために店内に戻りました。サクサクの甘いクレープや、フルーティーで爽やかなアイスクリーム、タピオカパール入りのバブルティーを手にする生徒もいました。テーマパークを一通り見て回った頃には、残念ながら出発の時間になってしまっていました。テーマパークの思い出に買ったお土産を手にする者もいれば、飲み物を手にする者もいた。2日間という長い間、とても盛りだくさんで、多くの人が遊び疲れていました。その分、帰りのバスは、行きのバスに比べると静かで穏やかでしたし、バスの中で眠ってしまった人も多かったです。けれど、貴重な2日間にデジカメで撮った写真を見返す生徒もいれば、お互いに作った様々な思い出や、この旅で味わうことができた新しい経験について話し合う生徒もいました。

Joanne (G9A)

G9キャンプの写真撮影

千葉、サンセットブリーズ保田でのG10キャンプ

ハイキングには何かしら穏やかで美しいものがあると思う。一歩が前に伸び、もう一歩が自分を押し上げる。キャンプ初日、G10たちはそんな体験をした。太陽が照りつける中、私たちはこれから始まる2日間の冒険について興奮気味に話し、ビーチやバーベキューを楽しんだり、学校の勉強やテストから解放され、お祭り気分で歌を歌ったりした。バスに揺られること2時間、私たちは山のふもとに到着した。どこもかしこも緑と青と白で埋め尽くされ、東京とそのあわただしい日々が、本をめくるようにあっという間に過ぎ去っていった。

絶え間ないおしゃべりと笑いに満ちたおいしい昼食の後、私たちの目は山の頂上に向けられた。海抜300メートルの鋸山が私たちに迫り、私たちはゆっくりと最初の一歩を踏み出した。もちろん、スタミナが違えばスピードも違う。そのため、3つのグループに分かれ、それぞれ違う道を歩きながらも山頂を目指した。苦労しながらも決意を固め、それぞれの限界に挑戦し、山頂に到着した。山頂に立つと、美しい海とこれから2日間滞在する場所が見えた。

下山路は静かなもので、誰もがまだ静かな喜びと誇りを感じていた。ハイキングは終わり、太陽はオレンジ色に傾いていったが、キャンプと興奮は続いていた。

宿舎につくと3つのセッションが待っていた。ひとつは目標設定、もうひとつはヨガ、そして最後のセッションはチームワークだった。全員がセッションを終えようとしたとき、グラウンドに全員が集まり、一緒にフットボールのゲームをすることになった。夕食後、何人かの生徒が別のスポーツをしている間、残りの生徒たちは海辺で写真を撮り合っていた。最終的には、焼けたマシュマロを食べながらのキャンプファイヤーで夜を締めくくった。この夜は、学年がひとつになり、ただただ楽しんだ、この旅で間違いなく忘れられない瞬間となった。

夏の景色を楽しむG10

翌朝早く、私たちは素晴らしい和風ビュッフェ式朝食を食べながら、友だちとただ楽しい会話を楽しんだ。その後、公民館で学年全体でのダンス・クラスに参加し、自分たちでダンスの振り付けをするなどのインタラクティブなアクティビティを楽しんだ。これは楽しいアクティビティであるだけでなく、コミュニケーションやコラボレーションのスキルを実践するのに役立った。最後に、私たちはぬるい海水につかりながら涼しい風を楽しみ、キャンプの最後のお別れとして楽しく過ごした。しかし、必然的にその日は終わりを告げなければならなかった。いや、本当にそうだろうか？帰り道、イライラする渋滞の中、私たちは予期せずに「海ほたる」に立ち寄ることになった。この場所には展望台があり、素晴らしい景色を眺めることができた。これでG10キャンプは素晴らしい終わりを迎え、この先何年にもわたって忘れられないものとなった。

Ananya、Howard、Jiani、Reshma (G10B)

ニューフェイス

前回の*The Comet* 発行後にオフィスチームにフィジカルトレーナーとして、新しいスタッフ**Takayuki Sakuma**が加わりました。

学校コミュニティを代表し、Mr. Sakumaの新しい役割での成功を祈っています。

Takayuki Sakuma
Physical Trainer

G11 DPキャンプ

期待に胸を膨らませながら、私は荷物をまとめ、これから始まるキャンプのためにバッグに荷物を詰めた。前日の夜、Mr. Hiroから持ってくるように言われた必需品をすべて用意し、これから始まる3日間の楽しみを心待ちにしました。

初日は、Mr. GombyaとMr. Waterfallによる小論文と大学のガイダンスから始まりました。Mr. Gombyaは、小論文の意義、題材の選び方、小論文の書き方について説明してくれました。大学進学ガイダンスでは、Mr. Waterfallが、強力な大学出願書類を作成するための重要な点と、私たちがどのように改善し、充実した出願書類を作成できるかを説明してくれました。

この夜のハイライトは、自分たちで熾した火で丹念に作った美味しいカレーを一緒に作ったことでした。そのカレーは、一見何の変哲もないように見えましたが、私たちが費やした努力と時間のおかげで、まるでミシュランの星付きレストランのような味に仕上がっていました。日が沈むと、私たちはキャンプファイヤーを囲んで笑い、怖い話を共有し、印象的なダンスを楽しみました。

2日目は、Mr. GombyaによるエキサイティングなTOKセッションから始まりました。その後、息をのむような海岸線へのハイキングに出かけました。美しい海の景色は心を癒し、リラックスさせてくれました。何人かは近くのビーチで泳ぎ、そこでMr. GombyaがKazukiとWWEスタイルのレスリングをするのを見ました。正直に言えば、これがこのキャンプで一番面白かったかもしれないです。夜の終わりには、グループに分かれ、それぞれのグループでこの2日間の出来事を演じたパフォーマンスを披露しなければならなりませんでした。その後、チーム対抗のゲームをして、夜は更けていきました。

最終日も興奮は冷めやらず、カヤック探検の準備をしました。パドルを手に海を進み、潮の流れを探検し、周囲の環境を受け入れました。その後、ビーチバレーをしたり、私とZoranは潮だまりを探検して、岩の中に隠れているカニや魚、その他たくさんのかっこいい生き物を見つけました。盛りだくさんでさすがに疲れました。後片付けをしながら、キャンプが終わりに近づき、翌週には学校に戻らなければならないことに気づかされました。

私たちは荷物をまとめ、スタッフにお礼を言い、バスに乗ってKISTに戻りました。バスの中では、UNOのゲームが何度か物議を醸し、当然のように昼寝もしました。

キャンプが終わり、私は充実感と一生の思い出を胸に帰宅しました。このような素晴らしい経験を企画してくださったMr. Hiro、そしてこの経験を思い出深いものにしてくださった他の先生方（Mr. Gombya、Mr. Waterfall、Ms. Cowie、Ms. Duncan）に感謝したいです。私たちはここで多くのことを学びましたし、学年としてこのような思い出をこれからも作り続けたいと思います。

Arjun (G11A)

I&S部門からのスナップショット

山の模型を手にするAdityaとIsabella（G6A）

G6 LSP I&S（Ms. Cowieのクラス）

G6の生徒は地図のスキルと投影に集中しています。最近の課題では、粘土で山の模型を使って等高線地図を作りました。生徒たちは、実際の地図にどのように表示されるかを描きながら、山の高さと標高を示す地図を作成し、創造性を発揮しました。この活動の間、生徒たちは過去の地図製作者が直面した課題について考える時間も持つことができました。

G6 LSP I&S（Mr. Beatonのクラス）

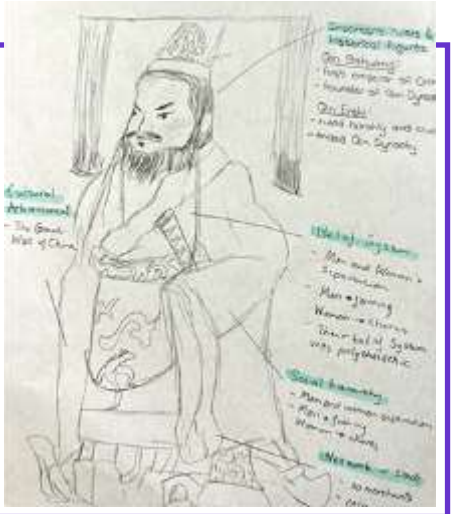
Quarter 1の最終日、G6 I&Sの生徒が校内オリエンテーリングに参加しました。生徒たちは、コンパスを使って位置を特定したり、今学期に学んだ地図をもとに質問に答えたりして、地理的なスキルを試しました。この活動は秋休み前の四半期を締めくくる素晴らしい方法となり、生徒たちは素晴らしい努力と姿勢を見せました！

G7 LSP I&S—History（2つのオプション）

G7では、しばしば「暗黒時代」とみなされる紀元前200年から1500年の間について学びました。重要なローマ帝国と漢民族、そしてその崩壊がもたらした影響について見てきましたが、この時代に繁栄し成功を収めた様々な帝国や王朝を目の当たりにし、生徒たちは「暗黒時代」という言葉に疑問を持ち始めています。

オプション1：生徒は、世界地図上に主要な地理的特徴をプロットし、それらが貿易に役立ったか、それとも妨げになったかを考えました。例えば、誰が海や大洋にアクセスできたのか。どのような山脈や砂漠が交易の妨げになったのか？どのような技術革新や自然の優位性によって、特定のグループはこれらの課題を克服できたのか？などです

オプション2：生徒たちは因果関係について学んでいたので、特定の帝国を選び、その崩壊の原因を分析しました。例えば、それは内部的なものだったのか、外部的なものだったのか、それとも環境的なものだったのか。政治的、社会的、経済的理由か？ここでは、生徒たちが帝国の特定の側面を体の一部に擬人化したグループワークを見ることができます（例：重要人物＝頭、背骨＝政府、文化的業績＝手など）。その後、生徒たちは「帝国の検死」を行い、最終的に帝国を崩壊させた「病気」は何かを決定しました。



G8 LSP I&S —Business

G8のI&Sカリキュラムは、G9のIGCSEの準備に重点を置いています。ビジネスユニットの一環として、生徒たちは新しい製品／サービスを考案し、共同でマーケティングチームを結成して、ターゲット市場、価格設定、流通、プロモーション戦略を検討しました。生徒たちは一次および二次市場調査に取り組み、その結果を応用してビジネス提案書を作成しました。KISTの保護者であり、成功した起業家でもあるAnil Raj氏は、生徒の市場調査中に惜しみなく見識を披露し、生徒の研究に実社会でのつながりを与えてくれました。彼のインパクトのある話は印象に残り、貴重な時間とサポートをしてくださったRaj氏に感謝の意を表します。

Ms. HoldawayとMr. Anil RajとG8メンバー

G9/G10 IGCSE History

G9は第一次世界大戦についての学習を終えています。戦争の原因、戦い方、そして連合軍が勝利した最終的な理由とその影響について分析しています。こちらは、ある兵器が戦闘に与えた影響を示すために彼らが作ったポスターです。

G10は、冷戦の緊迫した時期への学習にじっくりと取り組み、代理戦争やイデオロギー論争を通して、異なる超大国がどのように互いに関係しているかを探求しています。私たちは、自分たちの学習をどのように現代の多くの紛争に結びつけることができるかについて議論しています。

次のページに続く

前ページの続き

G9 IGCSE Business

この数ヶ月間、私たちはビジネスについてとても楽しく学びました。特に授業の始めにセネカとブルケットを通して前回の授業の復習をしました。私たち自身が消費者であり、企業が何を求めているのかを理解するのに役立つと思うからです。最近、さまざまな国の多国籍企業についての調査課題があった。フィリピンのIKEAとアメリカのトヨタに焦点を当てました。私たちが享受している多国籍企業がどのように世界中に広がっているのかを目の当たりにし、目から鱗が落ちる思いでした。例えば、私たちはそれらのホスト国で企業が守らなければならない様々な規則や法律について知りませんでした。この数ヶ月で多くの知識を得ることができたので、次の2年間もビジネスを学び続けたいと思っています。 —**Moka**（G9A）と**Rumi**（G9B）

(左>右) Fuwa (G9B)、Son Kwon (G9B)、Rumi (G9B)、Ami (G9A)、Luca (G9A)、Dipin (G9A)、Linya (G9B)、Moka (G9A)、Vardaan (G9A)

金融政策委員会に提言書を提出するKentoとHoward（G10B）

G10 IGCSE Economics

1学期中、生徒たちは6つのマクロ経済目標（経済成長、インフレ、失業、国際収支、環境保護、所得再分配）と、政府がどのようにさまざまな種類の政策を通じてそれぞれの目標をどのように最適化するかについて学びました。実社会における目標と政策の関係をより深く理解するため、生徒たちはチームに分かれて、南アフリカ中央準備銀行金融政策委員会が金利を引き上げるべきか、引き下げるべきか、あるいは維持すべきかを提言しました。プレゼンテーションを通して、各グループは、金融政策がどのようにマクロ経済の成果を達成するために用いられるかを説明することができたようです。プレゼンテーションは、金融政策委員会が金利に関する措置を決定する前に終了し、各チームはその結果を比較することができました。

G10 IGCSE Geography

1学期、G10の地理履修の生徒は、開発と人間の福祉について学び、この2つのトピックに影響を与える様々な要因について考察しました。紛争は国の発展に大きな影響を与える要因のひとつであることから、生徒たちはイスラエルとハマスの間で進行中の紛争について調べました。この紛争をケーススタディとして、G10の生徒たちは、紛争がいかに多くの環境的、社会的、経済的、政治的な影響をもたらし、全体的な発展を妨げるかを探求しました。

AliceとAlexによるポスター

G12 DP Business Management

10月初旬、G12のDPビジネスクラスに特別ゲストとしてMr. Coweが訪れ、リーダーシップとマネジメント、特に本校での役割について授業をしてくれました。Mr. Coweは校長として本校をより良くするために果たした責任とこれまでの努力について語りました。Mr. Coweは、状況に応じたリーダー、つまり、それぞれの仕事やメンバーに応じて自分のリーダーシップ・スタイルを適応させる人で、そのため、校長としてリーダーシップやマネジメント、あるいはその両方を発揮した過去の状況やシナリオについても語ってくれました。彼はまた、なぜ授業中はオフィスにこもらず廊下に座っているのか、といった生徒の謎も解き明かしました： 私たち生徒全員から孤立していないと感じ、コミュニティのような雰囲気を作るためです。最後に質疑応答の時間が設けられ、普段は答てもらえないような質問を学生一人一人がする機会を得ました。私は「人に任せることをためらったことはないか」と質問したところ、彼は「何度もあった」と答えました。別の生徒が、スタッフや教師のモチベーションを保つ方法について質問たところ、「常に前向きで、一貫性を持ち、整理された考えを持つことと答えてくれました。さらに、『大人は子供より教えるのが難しい』と付け加えられたことに、クラス中が驚きました。私たちは皆、校長である以上、生徒との交流や人間関係の方が難しいだろうと思い込んでいたのですが、実際には、教師の側からも積極的なコミュニティを確立することが、Mr. Coweが日々直面する最大の課題だったのです。洞察に満ちた授業をありがとうございました！ —**Maya** (G12B)

G12 DP Geography

DP地理コースの一環として、生徒たちは内部評価（IA）のために都市環境の調査を計画し、実行することが求められています。今年、生徒たちは都市ストレス、微気候、都市部におけるヒートアイランド現象の影響について調査しました。この調査の焦点として選ばれたのは新宿でした。主な目的は、緑地が都市部の環境の質を高める可能性をどのように持っているかを調べることでした。学生たちは、それぞれの場所で粒子状物質（P.25）、騒音レベル、気温、地面の反射率などのパラメーターを系統的に調査し、さらに、何人かの生徒は一般市民から調査データを収集し、その過程で日本語のインタビュー技術を磨きました。

アボガドロ化学試験

2023年5月（2022–23年度）、KISTの生徒はウォータールー大学が運営する難関の化学試験であるアボガドロ化学試験に参加しました。アボガドロ試験は高校化学コース1年目の11年生を対象としています。トピックは、物質の構造、結合、反応、溶液、気体などである。この試験には、高校化学の主要なトピックに関する、いくつかの難問が含まれています。

世界中で4741人の生徒がこの試験に参加し、KISTの生徒が参加したのは2023年が初めてでした。今回は合計で15名のKIST生（現在G12）が受験しました。

出題例

To a weighed, clean and dry 1.000 L volumetric flask is added some pure NH_4Cl. The flask is reweighed. Then distilled water is added to dissolve the NH_4Cl, and finally enough water is added, with stirring, to bring the solution to the 1.000 L mark. The flask is reweighed. Data are shown below.

Mass of clean and dry 1.000 L flask:	224.3 g
Mass of flask plus NH_4Cl:	280.1 g
Mass of flask plus NH_4Cl plus water:	1239.5 g

Which of the following statements concerning the resulting solution is correct?

A The molar concentration of NH_4Cl is 5.23 mol/L.

B The density of the solution is 1.24 g/mL.

C The solution is 22.6% NH_4Cl by mass.

D All of A, B and C are true.

E None of A, B and C are true.

KISTの生徒4名が世界のトップ200に入賞したことを誇りをもって皆様にお知らせします： **Xinyi**（G12A）、**Arnav**（G12B）、**Luer**（G12B）、**Haruto**（G12A）です。Xinyiは98%の正解率で世界86位、Arnavは世界91位でした。世界平均は40%でしたが、KIST生は平均66%を達成しました。

アボガドロ・コンペティションは、本校の生徒がDPのシラバスの範囲を超えて挑戦し、科学的な勉強に取り組む姿勢を大学に示す機会となりました。

KISTが化学のWaterlooコンペティションを運営するのは今年が初めてでしたが、結果はとても素晴らしいものでした。参加した生徒の皆さん、お疲れ様でした。

Judith Peel
Secondary Chemistry Teacher

日本のTop 3に入った生徒たち：Luer（G12B）、Xinyi（G12A）と Arnav（G12B）

KPASS音楽祭

11月18日（土）、G6～G10の生徒がKISTを代表して関東中等教育学校協会（KPASS）のソロボーカル＆ピアノフェスティバルに参加しました。KISTがこのフェスティバルに参加するのは今回が初めてでしたが、生徒たちはそれぞれのカテゴリーで金賞、銀賞、銅賞を受賞し、審査員の方々から惜しみない賞賛とご指導をいただきました。

Jessica (Eri)（G10A）のコメントです・・・

> 私はピアノソロでベートーヴェンのピアノソナタ第14番 嬰ハ短調「月光」～第3楽章：プレスト・アジタートを弾きました。このイベントで自分の能力を最大限に高めることができ、子供の頃からのクラシック音楽への熱い思いをこれからも続けていこうと強く思いました。音楽の力というのは素晴らしいもので、このイベントを通して、私はそのことを改めて心に深く刻み込むことができました。本当にありがとうございました。」

Mr. Rob、Ms. Nina

Mimi (G6A), piano
Bronze award

Ashlesha (G6B), voice
Silver award

Kanae (G6C), piano
Gold award

Eri Gu (G10A), piano
Gold award

Eunhoo (G10A), voice
Silver award

Chak Hang (G10B), voice
Bronze award

Edward (G10B), voice
Silver award

Jiani Li (G10B), piano
Silver award

休暇中の管理について

日本では、クリスマスと年末年始はエキサイティングな時期です。一人でも二人でも楽しめるアクティビティがたくさんあり、クリスマスを迎えるまでは、赤、緑、金で彩られたショッピングモールで、複雑なデザインのイルミネーション、賑やかなクリスマスマーケット、クリスマス音楽が流れます。クリスマスが過ぎるとすぐに、新年を迎える準備が始まります。今年は、ドラゴンをテーマにしたデコレーションが至るところに飾られることでしょう！しかし、このようなエキサイティングなことの中で、圧倒されるような特別な状況もあり得ます。

人によっては、また、あるグループにとっては楽しいことでも、別のグループにとっては不安やパニックを誘発する経験になるかもしれません。もしかしたら、お子さんが特定の状況に対処するのに苦労していたり、特定の出来事が近づいていることに困っていたり、対応を困難に感じていることに気づかれるかもしれません。この記事では、8つの感覚に焦点を当て、それらが過剰に刺激されている場合、あるいは過小に刺激されている場合、私たちはどのように子どもたちをサポートすることができるかを考えてみたいと思います。

まず、2つの重要な用語を定義させてください。
1. アンダー・レスポンダー（過少反応者）とは、多くの感覚的入力を求める人のこと。
2. オーバー・レスポンダー（過剰反応者）とは、感覚的入力を避けようとする人である。

Matthew Archer
Student Care Coordinator (Secondary)

感覚	過少反応者の行動	サポート方法	過剰反応者の行動	管理方法
味覚	スパイシーな食べ物や濃い味を楽しむ 強い味を食べた後、覚醒度と食欲が高まる。 食品以外のものを食べようとする	果実（の栄養素）入りの水を飲む 味のあるガムを持つ。食べる歯ごたえのあるスナックを持参する	食べ物に過敏になる 食べらるものが限られる 新しい食べ物に挑戦するとき、極端に不安になる 様々な食べ物や強いにおい、味がする社会的な場を避ける	まろやかな（刺激の少ない）味の歯磨き粉を使う 「安全な食べ物」のリストを作成し、公共の場での食事や移動の際に持参する。 食事時の感覚刺激（光や音）を減らす。
触覚	触られても気づかない 圧力に対する感覚が鈍く、不注意で他人を傷つける。 さまざまなところから圧力を求める（表面を押す）	手すさび用のおもちゃを持ち歩く 長時間人前に出るときは、安全な場所にし、さまざまな感触を試したり、好みの服を持ち歩く。 感覚遊びの機会を見つける	布地や衣類のタグに強く反応する 触られると「過剰反応」するように見える	一つの生地を選び、それを着用する 継ぎ目のない服を探す 触ることについて明確な境界線を示す指示を用意する。 シャワーよりも入浴をを選択する
臭覚	強い臭いに気づかない 毒物や腐敗した食品に気づかない	「香り当てゲーム」をする 料理にハーブやスパイスを使い、子どもに香りを嗅がせる。 香りのついた粘土やマーカーを使う	においに強く反応する（むせる/頭痛がする） 強い香りに悩まされる（香水／化学物質） 掃除用具のにおいに吐き気を感じる	化学物質や香料を含まない洗浄剤やボディ用品を使う ゴミは定期的に捨てる 部屋の換気をよくする においがきつい場所ではマスクの使用を奨励する
視覚	回転するもの、明るい光、反射するものに興味を示す 色、形、大きさに名前をつけるのが難しい	視覚的な乱雑さを減らす 視覚的な構造／時間割を作る 視覚を刺激するアイテムを用意する（溶岩ランプなど）	視覚的に圧倒される環境を避ける 動くものを警戒する 明るい光や点滅する光に敏感	視覚的な散らかりを減らす（壁の模様／カウンターの散らかり） 可能な限り、薄暗く自然な光を使う 過度なスクリーンタイムを避ける
聴覚	音に気づかない 強烈な聴覚体験を求める（音量を不適切に上げる）	視覚的なサポートを使って注意を引く テレビや映画を字幕で見る 優しく触れて注意を引く	聴覚刺激に気を取られやすい 他の人には聞こえないもの（音域のもの）が聞こえる	ノイズキャンセリング／遮音ヘッドホンを使う 家庭内の騒音に注意する
平衡・運動	揺れたり、揺れたり、その他似たような動きをするアクティビティを求める 安全性に関係なく、ジャンプしたり跳ねたりしたいという強い欲求がある	より大きな動きを伴う遊具を見つける： トランポリン、ブランコなど	車やテーマパークの乗り物など、空間を移動するときに吐き気を催す。 正確さが要求される動きが苦手	新しいことに挑戦するときはゆっくりと 階段はゆっくり降りる 子どもを車の前方（の座席）に乗せる
自己受容	事故を起こしやすい（怪我をしやすい） 積極的に体を動かすことによる空間への影響への認識が欠如している	ハグや背中のマッサージなど、安全な身体的接触をできるだけ多く行う	人との接触を避ける 人ごみで不安を感じる	公共スペースで予想される動き（整列／遊具の使用）をさせる 不必要な身体的接触を避ける
内受容（体内刺激に対する反応）	痛み、喉の渇き、空腹のシグナルに気づかない 特定の感情を表現するのが難しい	感覚や飲み物、おやつを休憩するアラームをセットする 担任の先生に定期的なチェックを依頼する	痛み、喉の渇き、空腹感に対する反応が亢進する 怪我が治った後も、怪我を感じ続ける	不安を軽減するために、前庭系に働きかける（揺れる/揺れる） 痛みを感じたときの適切な対処法について話し合う（例：他人を叩かない）

運動部最新情報

2023年秋シーズン

Kanto Plainクロスカントリー

昨年同様、今年も中・高等部を通じて非常に多くの参加者がありました。多くの生徒が自己ベストタイムを大幅に更新するなど、今シーズンも素晴らしい活躍を見せてくれました。

今シーズン、クロスカントリーチームに心血を注ぎ、魂を込め、汗を流してくれた皆さんに感謝します。また、12年生のEthanとYudaiにさよならと幸運を！あなたたち2人は、私たちのチームに一貫してポジティブな影響を与えてくれました。—Coach Cobbs

コーチCobbsとコーチD'Rozarioには、生徒たちをレースに連れて行ってくれたり、オーガナイズしてくれたりと、本当にありがとうございました！コーチOwenとコーチPeelにも感謝します！

Kanto Varsity男子、JV女子及びISTAA U-18男女バレーボール

女子チームは今年、関東JVとISTAA U-18に参戦しました。JVチームは開幕から苦戦を強いられましたが、実力派終始拮抗していた。YISでのJVトーナメントでは、QFで格上のSeisenに2–0で逆転し、SFではASIJに2–0で敗れましたが、どちらのセットも接戦でした。大健闘の素晴らしい大会でした！ISTAA U-18チームは昨シーズンの王者でしたが、今年は安定感に欠けました。今シーズンは2勝2敗で終え、BSTに第1セット5点のリードを奪われ、2–0で敗れました。3位決定戦では、KISTがコロンビアを2–1で破りました。

今年初めて関東リーグのVarsity男子の部 に出場しました

Varsity男子バレーボールトーナメント

Varsity女子バレーボールトーナメント@BST

Varsity女子バレーボールシニア

が、1試合を除き、すべての試合で健闘しました。何度か、チームの誰かが欠け、それが接戦の勝敗を分けました。ASIJのVarsityトーナメントでは（ここでも1人欠場）、第1セットをBSTから奪い、第2セットもリードしていましたが、ミスが目立ち、SFのチャンスをふいにして2–1で敗れてしまいました。プレッシャーのない試合ではYISを2–0で下すことができました。ISTAA U-18男子の部では、KISTが4勝1敗で第1シードを獲得しました。コロンビアで行われたトーナメントでは、KISTは終始優勢に試合を進め、コロンビアを2–0で下し、決勝ではDSTY（決勝でKISTを破った昨年のチャンピオン）を3–1で下し、2013年以来の**ISTAA U-18チャンピオンとなりました。**DSTYは今年のISTAAのSFで、同じBSTチームを破っているチームです。おめでとう！！

数年にわたり、KISTバレーボールチームに貢献してくれた以下の12年生に格別の感謝を捧げます：Selin、Jia Hang、Maya、Stephanie、Haruto、Ethan、Kaito、Aidan とShakti、**素晴らしい努力でした!! —**Mr. Ota

Kanto MS女子バレーボール

今年のKIST MS女子チームには過去最多の30名が参加しました。関東リーグにはAチームとBチームの両方が参加し、Aチームはリーグ戦で3位、シーズンを締めくくるトーナメントでも3位となり、2年連続でトップ3入りを果たしました！Bチームは苦戦していましたが、懸命に努力し、シーズン後半には大幅に改善しました！

Kanto Aチームで3位入賞の健闘を称えます。苦戦したこともありましたが、よく頑張りました! —Coach McAllister

次のページに続く

前ページの続き

Mr. Jay、今年も素晴らしいシーズンを送れたMS女子バレーボールのコーチをありがとうございました！

MS女子バレーボール

Kanto MS男子サッカー

今年もMS男子サッカーはメンバーが30人近くまで増え、多くのG6生が参加しました。KISTはリーグ戦では10チーム中8位でしたが、比較的若いチームであり、将来は明るいと思います。

今シーズンはよく頑張りました！厳しい時もあったと思いますが、若いチームなので、将来が楽しみです！このシーズンとチームの雰囲気を成功に導いてくれた参加者全員に感謝します！ —Coach BuckとCoach Archer

この数年サッカーチームのコーチを務めてくれているMr. BuckとMr. Archerの献身に感謝します！

MS男子サッカー

Kanto Plain Varsity/JV男子テニス

今年の男子テニスチームは15名で、VarsityとJVの混合チームでした。比較的若いチームで、接戦も多くありましたが、KISTは今年の団体戦では残念な画が一勝もできませんでした。ASIJで行われたJVトーナメントでは、トップシードの選手がQFラウンドに進出し、KISTは成功を収めました。

過去3年間、男子テニスチームを指導してくださったセカンダリー校長のMr. Cowe、本当にありがとうございました！

Kanto Plain Varsity/JV女子テニス

今年のテニスチームには18人の女子が参加し、VarsityとJVの混合で試合を行いました。多くの試合日において、天候による中止や日程変更があり、非常に厳しいシーズンとなりましたが、チームとコー チは辛抱強く戦いました。

全体として、HS女子Varsityテニスチームは、この秋、非常に前向きで、かつ困難なシーズンを過ごしました。6校と対戦し、2つのトーナメントに参加しました。ASIJで開催されたVarsityトーナメントでは、JessicaとShreyaは2勝1敗。Shreyaは座間のシングルス選手2人に勝ち、ベスト16に入りました。JessicaはYISと横田に勝ちましたが、準々決勝でノックアウトされ、残念ながらベスト8に終わりました。St. Mary'sで開催されたJVトーナメントでは、あまり良い結果は残せませんでしたが、チーム全員がいくつかの難しい対戦でベストを尽くしました。特に注目すべきは、準々決勝でSeisenのトップシードを相手に惜敗したYixuanの試合でした。タフなシーズンであり、初めてのVarsityリーグ参加であったにもかかわらず、練習や試合に参加してくれたチームの全員に感謝します。コーチングを手伝ってくれたMs. Cowieにも感謝します。Ms. Cowieも私も、すべての選手が大きく成長するのを目の当たりにしました。みんなよくやりました！ —Coach Alba

Coach AlbaとCoach Cowieには、試合の運営や参加に尽力していただき、本当にありがとうございました。

冬季シーズンチームは秋休みから戻った最初の週に練習を開始しました。初めて正式にレスリングを提供しはじめたことを嬉しく思います（KIST初の試みです・・・Coach Buckありがとうございます！）。そして、関東リーグでの強豪校と対戦することを楽しみにしています。

今年はHSレベルで2つのサッカーチーム（VarsityとJV）があります。バスケットボールチームにとっては、施設がないため、かなり厳しい状況ですが、この状況下でベストを尽くしており、1月の新しい体育館を楽しみにしています。野球は1月中旬に野上コーチのもとスタートする予定です。

現在、以下のチームが活動中で、間もなく試合が行われるます：JV/Varsity男子サッカー、JV＆U-18男子バスケットボール、JV＆U-18女子バスケットボール、MS/U-14男子バスケットボール、JV＆MSレスリング。

1月からはホームゲームもあります。生徒、教師、スタッフ、保護者の皆様、ぜひ応援にいらしてください。
試合情報や結果はこちらをご覧ください。
Schoology >> Groups >> Resources

Dennis Ota
Athletics Coordinator

スタッフ10!

今月のスタッフ10！では、2018年8月に初等部の指導チームに加わったDerek Rogersをご紹介します。当初はティーチングアシスタントとして、その後ELSインストラクターとして勤務していましたが、2022年8月に教職に就き、現在はG1Bの担任をしています。

1) 出身地について面白いことを教えてください。
私はウォルト・ディズニー・ワールドから車で30分のフロリダ州キシミーで育ちました。高校と大学の夏休みは、そこの土産物店で働きました。私の肩書きは、忘れもしない「マーチャンテインメイント」というふざけた造語でした。

2) 世界で一番好きな場所はどこですか？
ミネソタ州ミネアポリスにあるコロッサル・カフェです。私は2年間ミネソタに住んでいて、毎週日曜日の朝、友人とそこで朝食をとっていました。ある時、毎週の習慣を守るべく、吹雪の中車を運転していて危うく事故を起こすところでした。

3) チャンスがあったら会ってみたい人は誰ですか？その理由を教えてください。
ビョークです！才能あるミュージシャンであり、私のお気に入りのアルバムを何枚も書いていることに加え、彼女はクリエイティビティについて多くの魅力的な意見を持っています。

4) 何か特別なスキルやタレントをお持ちですか？
私のペットの亀の形をしたケーキを作ったことがあります。『グレート・ブリティッシュ・ベイク・オフ』の高みには届かなかったですが、『Nailed IT！』で見るようなひどいものではなかったと自負しています。それに、味も最高でした。

5) ご自身についてあまり知られていないことを教えてください。
私はニューヨークタイムズのクロスワードパズルが大好きです。何年もやっているのに、土曜日のパズル（一番難しい）はググらないと解けません。いつかは！

6) あなたにとって一番の宝物は？
私は、家族が遠隔操作で写真をアップロードできる電子写真立てを持っています。とてもシンプルなものだけど、いつ新しい写真がアップされるかわからないので、とても楽しみです。とってもかわいい甥っ子たちがいるのも悪くないです。

7) あなたはどのIB学習者像を身近に感じますか？その理由もお聞かせ下さい。
Reflectiveでしょうか。経験や新しい知識、正直な自己点検に基づいて反省し、変更を加えることはとても重要だからです。

8) もう一度人生をやり直せるとしたら何か他のことをしたいですか？
ロサンゼルスに住んでいた頃、同じレストランに3度行きました。その3回ともジェフ・ゴールドブラムを見かけたのですが、私は一度も彼に近づけませんでした。人が食事をしているのを邪魔しない、という客観的には正しい選択をしたとはいえ、彼と一緒に写真を撮りたかったのは確かです。

Mr. Derekがマイクの色と、音質を探求している所

9) 自分を高めるために今やっていることは？
夏にオートバイの免許を取得しました。車の運転と違って、バイクの運転は常にその場を体感できることで、とても楽しいです。

10) ファンに一言お願いします。
すばらしい一日を！

スクールカレンダー2024-25

ご家族の旅行、特に海外への旅行計画などの利便性を考え、2024–25年度の長期休暇や重要な行事日程を以下に記載します。

ご家族には、生徒が休み明けに必ず登校できるよう日程をご確認の上、旅行等の計画を立てて頂けますようにお願いいたします。**カレンダーの完全版は2024年6月に配布されます**

- **新学年度生徒始業日:**
  2024年8月19日
- **KISTival 2024:**
  2024年10月26日
- **秋期休暇:**
  2024年10月27日～11月3日
- **冬期休暇:**
  2024年12月14日～2025年1月5日
  （生徒の新年度の始業日は2025年1月6日です）
- **春期休暇:**
  2025年3月22日～30日
- **ゴールデンウィーク休暇:**
  2025年5月3日～6日
- **生徒の最終登校日:**
  2025年6月11日

クラブ活動のハイライト

Crochet（かぎ針編み）クラブ（エレメンタリー）

かぎ針と毛糸を使って布を作るかぎ針編みは、糸や針金などの素材を使った多彩な工作が可能です。高学年では、糸を使ったテクニックの習得に重点を置き、主に4つの基本的なステッチ（チェーン、スリップ・ステッチ、シングル・クロッシェ、ハーフ・ダブル・クロッシェ、ダブル・クロッシェ）を学びます。これらの基本的な縫い目は、若いクラフトマンたちに創造的な可能性の世界を広げます。

セラピー効果で知られるかぎ針編みは、ストレスを和らげ、瞑想的な趣味としても役立ちます。複雑な模様を作りながら、達成感や集中力を味わうことができるのです。さらに、運動神経や手と目の協調性を高め、創造性、忍耐力、忍耐力を養うことができるため、生徒たちのスキル・セットに豊かさを加えることができます。

G3からG5までの15人の生徒で構成されるこのクラブは、2つのセクションに分かれています。1つ目のセクションでは、伝統的なかぎ針編みのテクニックを教えることに集中し、各ステップをマスターするための忍耐と練習の重要性を強調します。このような構成は、創造的な空間を育むだけでなく、生徒間の友情と仲間意識の形成を促進します。

クラブの包括的で順応的なアプローチを通して、生徒たちはかぎ針編みの技術を磨くだけでなく、社会的なつながりや手芸の芸術に対するより深い理解を育んでいます。

Muskan Manwani
Club Supervisor

演劇部（セカンダリー）

秋休みの間、私たちの多くが休暇をとっている中、演劇部から10人の勇敢なKIST生徒が集まり、代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで、毎年恒例のKPASS中学校ドラマフェスティバルに参加しました。12の異なる学校から代表者が集まり、パフォーマンスについて学び、即興のスキルを練習し、仲間と共に新しい作品を創作しました。COVIDの規制が終了して以来初めて開催されたこのイベントでは、生徒たちはマスクなしで交流し、観客の注目を浴びながら思い切り自分を表現することができました。

Mr. Charlieもこのイベントに参加し、一日の大半をワークショップのクラスで指導しましたが、KISTの生徒たちは他の学校の生徒たちと一緒に分散して活動しました。

今年参加した生徒たちが、次回もまた、興味を持った多くの友人を引き連れて参加できることを願っています！

"・・・KPASSフェスティバルでは、私と他の学校の生徒が作品を上演しました。とても面白い経験だったので、来年も参加したいと思っています。」
・・・この演劇祭は私に自信をつけさせてくれました。参加して本当によかったです。」
・・・グループ内で少なくとも2人と話すことができたのは驚きでした。」
・・・演劇をやるために参加したのに、それ以上のものを得て帰ってきた！」
・・・ドラマフェスティバルは、他校の友達を作るとても良い機会です。」
・・・たくさんの忘れられない思い出を持って帰ることができた。」
・・・たくさんの新しい人と出会い、素晴らしい経験をすることができた。」

保健便り

今年の冬を健康的に過ごす

今年の夏は前例のないインフルエンザ流行が起こり、冬のウイルス感染拡大を心配されている方は多いと思われます。特に8歳以下の子どもは免疫機能が完全ではないので大人よりもウイルスや細菌などの感染症に罹りやすい傾向があります。従って積極的に健康的な生活習慣を取り入れることが重要です。

健康的に過ごすには

衛生管理に励む

正しい手指衛生を子どもに教える。食事の前後や、外遊び、ペットとの触れ合い、鼻をかむ、トイレを済ませる、学校から帰宅した後などの衛生状態に気を配りましょう。細菌を減らすことは、厳密には免疫力を高めることではありませんが、免疫系へのストレスを減らすには最適な方法です。最も簡単で効果的な方法は、石鹸と水で頻繁に手を洗うことです。

インフルエンザ予防接種

日本小児科学会は、生後6ヶ月から13歳までの子どもは2回、13歳以上の子どもは1回のインフルエンザ予防接種を推奨しています。2回目の接種は2～4週間の間隔をあけることが望ましく、可能であれば3週間あけて接種するとより効果的です。

バランスの取れた食事摂取

のどや鼻の粘膜を丈夫にするビタミンA（β□カロテン）と、侵入してきたウイルスに対抗する作用のあるビタミンCを十分に摂る

- ビタミンA：ほうれん草、にんじん、かぼちゃ、ピーマンなどの緑黄色野菜
- ビタミンC：野菜、イチゴ、柑橘類、キウイフルーツなど

疲労回復には、糖質をエネルギーに変えるビタミンB1と、その吸収を高めるアリシンの摂取がお勧め。

- ビタミンB1：豚肉、鮭、豆類
- アリシン：ニンニク、タマネギ、ニラ、ネギ

腸内環境を整える

便秘などで腸内環境が乱れると、免疫力が低下し体調を崩しやすくなるので腸内環境を整えましょう。

ビタミンDの補充

屋外で直射日光を浴びると体内でビタミンDが作られ呼吸器感染症のリスクを軽減することができます。またビタミンDはサケ、イワシ、ニシン、サバなどの脂ののった魚や干しシイタケなどの食品にも含まれています。

こまめな水分補給

冬でも十分な水分摂取は重要です。夏に比べ寒さで喉の渇きに気が付かず、意外にも軽い脱水症状に陥ることがあります。

適度な運動

運動により、免疫システムがウイルスから身を守るために働きます。また子どものストレスが解消され、副交感神経の働きが高まり、体がリラックスし免疫細胞が活性化することもあります。

体温調節機能の発達

体温が高いと免疫細胞は活性化すると言われています。屋外での運動は汗腺を発達させ、体温を適切に調節できる体作りに最適です。

規則正しい睡眠の確保

規則正しい就寝時間と十分な睡眠時間を確保することで健康の増進や病気からの回復を助け、集中力も高めることができる。

就学前（3～5歳）：昼寝を含めて10～13時間
6～12歳の子どもは9～12時間
13～18歳の中高生は8～10時間

部屋の加湿

冬は室内の相対湿度が30%以下になることがあり、ウイルス感染など健康トラブルが増加しやすくなります。加湿器を使用し呼吸する空気に水分を加えることで、風邪やアレルギーの症状、副鼻腔内や肌の乾燥、唇のひび割れなどのトラブルを緩和することができます。

特定の病状をコントロールする

例えば喘息、乾燥肌、アトピー性皮膚炎。冬の外気は冷たく乾燥しており喘息や皮膚トラブルの症状を悪化させやすいので医師などのアドバイスに従い適切なケアを行いましょう。天候や気温に合わせた服装選びも重要です。

皆さん、健康維持に努め、楽しい冬休みをお過ごしください。

Yukiko Yamazaki
School Nurse

Reference:
Healthy information for western Australians. (2023, March). *Staying healthy in winter.* Government of Western Australia, Department of Health.
https://www.healthywa.wa.gov.au/Articles/S_T/Staying-healthy-in-winter

KIST保護者会（CA）ニュース

CAチーム2023–24

CAキックオフミーティングにて保護者や学校から
とても好意的な反応がありました。

2023年9月18日に開催されたコーヒーモーニングにて、コミュニケーション委員会がサポートし、参加者から多くの良い反響をいただきました。

図書委員会のメンバーは、ブックカバリングに熱心に参加してくださいました。また、2023年10月9日に開催された、ブックセールの本の仕分けや値付け作業にも積極的に参加してくださいました。イベント当日は悪天候にもかかわらず、全てのボランティアの方々のご協力によって無事成功させることができました。

サービス委員会は、寄付されたテトラパックの回収作業を行いました。

IT委員会は、「インターネットにおける安全対策について」というオンラインイベントを2023年11月7日に開催しました。

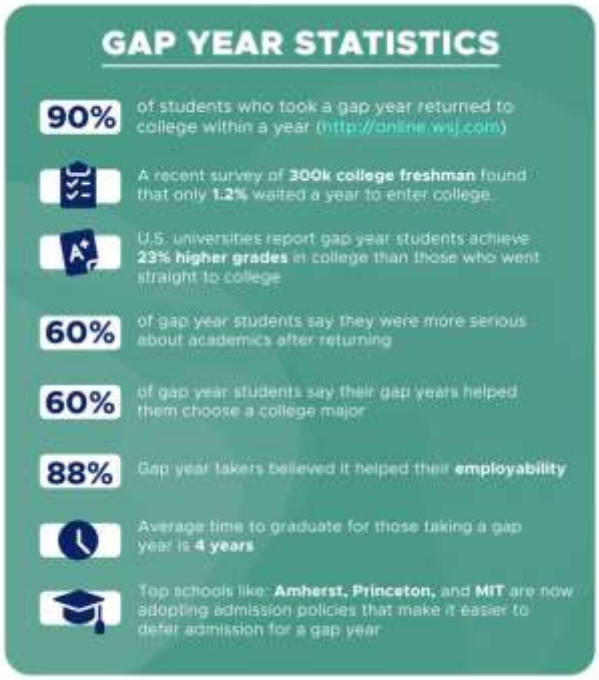
11月23日、イベント委員会は中古制服販売会を行いました。

Join us!

大学ガイダンスニュース

ギャップ・イヤーはアジアの新しいトレンド？

高校と大学の間のギャップイヤーという概念は新しいものではありませんが、ここ数年でますます一般的になってきています。ヨーロッパ／イギリスでは、ギャップイヤーは普通のことと考えられており、10%以上の学生が取っています。しかし、アメリカやアジアの大部分では、ギャップイヤーは一般的に「選択肢に入らない」、あるいは「成績の悪い学生だけのもの」と見なされてきました。ここでは、ギャップイヤーの噂を覆し、ギャップイヤーが必要とされる状況について説明したいと思います。



ギャップ・イヤーが必要とされる状況とは?

国際バカロレアディプロマ・プログラム（IBDP）の利点は、世界中のほとんどの国に出願できることですが、「出願シーズン」は国によって大きく異なります。以下にいくつかの国を例として挙げます。世界にはもっと多くの国があるかもしれませんし、もし当校の生徒が出願するのが一般的でない特定の国をターゲットにしている場合は、確認するか、または私にお尋ねください！

国	必要とされるギャップの期間	なぜ？
日本（日本語でのコース） 韓国（韓国語でのコース）	半年	コースが春に開始されるため、KIST卒業後まで出願できない
オーストラリア・ニュージーランド	半年	コースが春に開始されるため、KIST卒業後まで出願できない
スウェーデン	1年	IB結果が発表されてから出願までの時間が十分ではない（PG予想点、では出願不可）
デンマーク、その他のヨーロッパ諸国	入学条件ではないが、いくつかのトップ大学や、専攻によっては1年間が推奨される	いくつかの学校でこれが推奨される理由は、強力な出願のためには、最終的な（公式）IBDPスコアが必要であるため

必要ではない場合、どのような時にギャップ・イヤーが有効なのか?

ギャップイヤーは、若者のメンタルヘルスやストレスの問題が深刻化していることから、ますます多くの専門家が提案するようになっています。また、ギャップイヤーがなければ存在しないかもしれない機会を提供してくれます。KISTには毎年様々な理由でギャップイヤーを取る学生がいます。以下はギャップイヤーをお勧めする一般的な状況です。

- **非常に競争の激しい米国の大学を志望しているが、課外活動がほとんどない。**
  アイビーリーグやそれに類する大学を目指すことは非常に競争が激しくなっており、論文発表、研究・実務インターンシップ、特許取得済み、全国レベルのスポーツ、またはそれに類する何かがなければ、その道は不可能に思えます。熱心な学生にとってギャップイヤーは、このようなことを達成するための時間となります。

- **大学から内定をもらっているが、G12で飛躍的に成績が向上し、IBのスコアが予定より良くなった。**
  このケースの生徒は、学期ごとの成績やIBスコアの学業プロフィールが非常に向上している可能性があります。このため、予定では出願できなかった大学に出願できる可能性があります。

- **生徒が自分の限界を超え、大学出願と同時にG12に必要なすべてのことに集中しようと必死になっている。**
  私たちは皆、健康とウェルビーイングを優先する必要があります。人生の全期間を通して100%のエネルギーでいられる人などいませんし、学力に関係なく、今は次のステップに進む前に、自分自身とIBコースに集中する時期だという学生もいます。**早期の出願より、強力な願書の方が効果的です。**

次のページに続く

前ページの続き

- **将来（医学部、博士課程、法科大学院）に対して非常に野心的な計画を立てており、旅行のための休暇を取りたいと考えている学生。**
  非常に競争力のある専攻への希望を持ち、大学にあと6年以上在籍する可能性のある学生は、これからの学問の旅に身を投じる前に、よりグローバルな文化について学んだり、短期間の交換留学をしたりする時間を楽しみたいと思うかもしれません。

- **学生が将来の学業に関して経済的困難に直面している。**
  家族が立ち直るために時間が必要な場合でも、学生が1年間働いてお金を稼いだり、奨学金の機会を探したり、（うまくいけば円高になるのを待ちながら）もっと手頃な大学を探したりしたい場合でも、ギャップイヤーは悪い選択ではありません。

ギャップイヤーをとることが逆効果になる場合も?

この記事はギャップイヤーの背後にある肯定的なアイデアについてですが、それは誰もが考慮すべきものであることを意味するものではありません。最も懸念されるのは、学生がギャップイヤーをとって何も生産的なことをしないことです。世界中のほとんどの大学で、「ギャップイヤーを取りましたか？もしそうなら、その期間に何をしましたか？」という質問があります。もしその質問にポジティブなことが答えられなければ、G12の間に普通に出願した場合と比べて、出願結果が悪くなる可能性があります。

KISTでは毎年5～10%の生徒が上記のような理由でギャップイヤーを取っています。G12に入学する際、ギャップイヤーがあなたやあなたのお子さんに合うかどうか考えてみるのもよいかもしれません。KISTの授業料の一部は、1回の出願シーズン中の出願のための大学支援に充てられます。いつ出願することになっても、私たちは全面的なサポートを提供します。ですから、自信をもって、一生懸命に、そしてもっとも大切なことは自分を大切にすることです！

KIST卒業生フォーラム—2023–24冬

今年も素晴らしい卒業生たちが、現在の大学生活について語ってくれます。既に終了したものもありますが、今後のスケジュールは下記をご覧ください。また、Schoologyの大学ガイダンスページで、今年や昨年聞き逃したものの録画をご覧ください。

日時（日本標準時間・月曜日開催）	卒業生氏名	KIST卒業年度	フォーラム言語	大学名
12月4日 | 7:30 a.m.	Heet	2023	English	Georgia Tech University, USA
12月11日 | 7:30 a.m.	Varun	2023	English	Audencia Nantes School of Management, France
12月18日 | 5:30 p.m.	Hriday	2023	English	National University of Singapore, Singapore
1月8日 | 7:30 a.m.	Shuonan	2023	English	Stanford University, USA
1月15日 | 5:30 p.m.	Saanvi	2023	English	Johns Hopkins University, USA
1月22日 | 7:30 a.m.	Su Yeon	2023	English	University of Tsukuba, Japan
1月22日 | 5:30 p.m.	Hajime	2023	Japanese	Waseda University, Japan
1月29日 | 5:30 p.m.	Shreya	2023	English	University College London (UCL), UK

Thomas Waterfall
University Guidance Counselor
thomas.waterfall@kist.ed.jp
Office hours: Monday–Friday, 8:00 a.m.–5:00 p.m.
University Guidance Office (3F Secondary Building)